

六甲カトリック教会報

2005.5 No.401

5月のお知らせ

	教会暦	教会行事
1	日 復活節第6主日	
2	月 聖アタナシオ司教教会博士	
3	火 聖フィリポ聖ヤコブ使徒	
6	金	初金 7:00 10:00 ミサ
7	土	9:30 教会大掃除 14:30 教会学校保護者会
8	日 主の昇天	12:00 中高生会保護者会
11	水	第56回結婚準備セミナー開始(6月4日まで)
14	土 聖マチア使徒	
15	日 聖霊降臨の主日	7:00 9:00 ミサ(11時のミサはありません) 10:00 東ブロック合同堅信式(神戸中央教会)
16	月	14:00 三日月会ミサと例会
19	木	14:00 ベタニアの集い
22	日 三位一体の主日	
23	月	11:00 ベビーとママの集い
26	木 聖フィリポ・ネリ司祭	
29	日 キリストの聖体(両形態の拝領)	
31	火 聖母の訪問	マリア祭 7:00 10:00 ミサとロザリオの祈り

カリフォルニアを旅して

今年1月中旬から約1ヶ月、休暇を利用してカリフォルニアを旅することが出来ました。合衆国の一つの州でありながら、日本の国とほぼ同面積をもった広大な州である。人口は3,000万人くらいだから、とにかく広々しているように感じられる。南隣のメキシコから、またアジア諸国からの人々も多く、サンフランシスコやロサンジェルスの大都会は、観光客を含め華やかな国際社会を形成しているように見える。が、一般市民は地価の安い郊外から1時間以上の通勤者が多く、一人一台ずつ車を運転するので高速道路の朝夕のラッシュはストレスの象徴のようであった。どこの国でも、毎日朝から夜まで働いて生計を立てるのは大変な心身消耗なのだろう。大昔洞穴に住んで農耕や狩猟で糧を得ていた原始時代から、今日ただ今も人間は同じ苦勞をしているのかも知れない。スーツを着、

車に乗り、電話を使い・・・確かに文明の進歩という大きな相違はあるとしても、人間の生きる姿勢や心情は昔も今も余り変わっていないように思われた。国民性の違いと云えども、日本ではお茶碗でご飯を食べるが、アメリカではお皿でライス(?)を食べるとい程度の違いではないだろうか。

いつの時代でも、人間は人と人との関係、自然環境との関係、そして神さまとの関係の中で生きている筈なのに、競争社会の中にはどうも神さまとの関係が見えて来ない。むしろ、アメリカ政府や大企業は石油・鉱石などのエネルギー資源を求めて、自然界への挑戦や他国への利権獲得に向かっていているようだ。国が進めている宇宙開発も同じ線上にあるのではないだろうか。車社会を旅していると、ついついそのような印

象を受けてしまう。富む者はさらに豊かさを望む。その欲求こそ資本主義経済を動かしている原動力かも知れない。弱者・病者・貧者との交流や分かち合いは、教会の祈りであり使命であると思われる。カリフォルニア州は他国籍の方々を含めてカトリックが強く、信徒の終身助祭もいれば小学校を併設している所もあり、教会が生き生きしていると感じられる。訪問した教会ではミサの10分前から、その日の聖歌演奏と詩編独唱があって祈りの雰囲気がよく準備されていた。そのためか、ギリギリに聖堂に駆け込む人が少なく、ミサ中の賛美歌も良く歌われていたのは学ぶところ大(?)であった。「主の祈り」と「平和の挨拶」は和やかで、多民族がキリストのうちに一つに集まっていることが実感できる時間であった。ミサは人々が国籍を超えて共に生きて行く力になっているようでした。私もミサに参加する喜びを味わったけれども、会衆席にいと献金袋が廻って来るのを忘れていました…。アメリカの教会は日曜日のミサ献金を主な財源としているので、大きな袋が廻って来ました。

今回は人生最後のアメリカ旅行になるかも知れないという想いもあったので、是非一度は行きたいと願っていた「ヨセミテ国立公園」を訪ねた。サンフランシスコから南東にバスで4時間、延々と続くアーモンドの畑を過ぎ、その昔ゴールド・ラッシュで人々が一攫千金を夢見て押し寄せた場所を通って、ヨセミテに着いた。シエラネバダ山脈の一部で、東京都の1.5倍の広さを誇る公園であるが、中央には約750メートルの落差で三段になった滝があり、1,100メートルの垂直に伸びた一枚の花崗岩がそびえている。ロック・クライミングには5日間もかかるらしいが、命賭けで登る登山家が後を絶たないと。この公園は3億年前は海底であったと言うから、地球には海中にも山中にも人間がまだ知らない神秘が一杯存在しているのである。私はその大自然に感嘆し圧倒されるだけの小さな存在であったが、神さまによる創造のごく一部分を垣間見た思いであった。太陽が沈み夜の帳が下りると、谷間を覆っていた空一面に星屑がキラキラと輝き出した。今にも神の愛が地上に降って来るかのようでした。

桜井神父

各 部 会 だ よ り

🙌 壮年会

4月17日に開かれた壮年会例会では桜井神父の「日本人の信仰について(仏教を参考にして)」というお話を聴きました。壮年会のメンバー以外の方も多数来られ、興味深いテーマの講話に聞き入りました。

「仏教的風土の中に育まれたキリスト者としての悩み」といった内容で、日本人の文化、歴史の厚みが信仰にどう影響してくるかという根源的なお話でした。質問、意見も活発に出され、分かち合いをしました。

🙌 婦人会

< 5月行事 >

27日(金) 遠足
生野カトリック教会とあさご芸術の森美術館
31日(金) マリア祭 ミサとロザリオの祈り
ミサ 10:00

< 5月掃除当番 >

7日(土) 東5・中1
6日(金)を全体大掃除(7日)に振替させて頂きます。是非ご参加下さい。
13日(金) 中2・中3
20日(金) 中4・中5
26日(木) 西1・西2
27日(金)婦人会遠足の為、前日(26日)に変更しております。
いずれも時間は午前9時からです。よろしくお祈りします。

👉三日月会

三日月会例会は予定通り5月第3月曜日、5月16日14:00から開催します。
尚、ミサの後の読書会は他の行事に変更の予定で
す。

👉青年会

5月8日、22日(日)12:30~14:00
定例会 聖書研究(指導:高山神父)

👉地区会

<5月地区集会のお知らせ>

Dog Wood 市外東部地区

日時:5月7日(土)11時~

場所:六甲教会 小聖堂

内容:安芸神父司式によるミサ
ミサ後、親睦会

六甲台・鶴甲地区

日時:5月14日(土)11時~

場所:六甲学院庭園

内容:赤松神父司式による野外ミサ
ミサ後、親睦会

本山地区

日時:5月21日(土)10時30分~

場所:六甲学院庭園

内容:梶山神父司式による野外ミサ
ミサ後、親睦会

👉典礼部

典礼奉仕者を募集しています

ごミサは信徒の方々の奉仕によって、豊かなものになっています。

典礼奉仕には、先唱、朗読、祭壇奉仕、オルガン、聖歌奉仕があります。

「オルガンを弾くのが得意なだけど」「聖書を読むとお上手ね、と言われるの」「歌うのが好きです」・・・という皆様、典礼奉仕に加わってみませんか?

ご希望の方は、典礼奉仕者の集い(6月26日13:30~15:30 イグナチオホール)にご参加下さい。お待ちしております。

👉施設管理部

阪神淡路大震災モニュメントの件

聖堂外側の西北の角にあるモニュメントの祈りの言葉が、表記板によってよりよく見えるようになりました。

これは信徒の福田信三さんのご友人の山下聖様がモニュメントの趣旨を理解されて御寄付してくださったものです。

板の材質はチタンで文字はエッチングされて半永久的なものです。



祈り文

“主よ我等の家族を護りたまえ。
阪神淡路大震災で亡くなられた
人々を悼んで”

👉社会活動部

6日(金) 連絡会 第2会議室

初金のミサ後、11時頃より始めます。

今回は色々ご相談したい事も沢山ありますので、各ボランティアグループ代表者若しくはメンバー、必ずお一人は御出席下さい。

11日(水)10時~ 「手芸の会」

於 第一、第二会議室

携帯電話ケース、他小物を作ります。

興味のある方、何方でも御参加下さい。

14日(土)9時30分 炊き出し

ホール横の台所で準備、用意出来次第、小野浜公園に移動致します。

お手伝い、宜しくお願い致します。

22日(日) 手作りコーナー イグナチオホール

毎月第3日曜日に開いていますが、今月は“合同堅信式”があるため第4週に変更させて頂きます。

27日(金)14時～ 須磨方面の夜回り用の
「おにぎり作り」
毎1日、手伝って頂いております“**こどもの里**”路上バザーですが、今月はお休みです。
来月のお手伝いを宜しくお願い致します。

難民支援グループ「ルチア」誕生

昨年夏頃から、教会報に度々登場致しました難民支援グループが、グループ名「ルチア」と名づけ、4月より教区シナピス難民移住移動者委員会の神戸地域の活動の一部分を、微力なが

らお手伝いすることになりました。メンバーは9人。今までの入管面会、裁判傍聴等の活動に加えて、仮放免され神戸地域に住む方々のソフト面をサポートしています。まだ動き始めたばかりですが、難民の方たちが少しでも、希望を持って生きてゆけるように、各方面の方々のご協力を頂きながら、共に歩む喜びを分かち合っております。神様が今、私たちに何を求めておられるのか、いつも心の耳を澄ませながら、歩んで行きたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

📖 図書紹介

「武士道」

新渡戸稲造著 須知徳平訳
講談社インターナショナル

この程御逝去されたヨハネ・パウロ2世は、「多宗教、多文化の共存,共生」を訴えられたことは御案内のとおりであります。この共存、共生を図って行くためには、われわれ自身もまずもってその拠って立つところをしっかりと確立させるということが不可欠の要件になるのではないのでしょうか。しかしながら、最近の日本の政治、経済などの様々な事象の前で、われわれの国日本が、いかにその生くべき姿を自覚し、しっかりと自らの価値観というものを固めなければならないかを痛切に感じております。こうしたなかで、今回紹介する本は、まさに時宜に適ったものではないかと推薦するしだいでありませぬ。

かつての日本人がしっかりとした価値観をもっていたことが、この新渡戸稲造著(1862 1933)「武士道」(原文は英語で、この本は英語邦訳の対訳本)によって明らかになります。国際人としてのキリスト者新渡戸稲造が「戦争なき状態が平和にあらず」と主張するその論述の深さに、また日本人のあるいは日本人の感性、日本文化の微妙な側面を絶妙な英語表現で陳述していることに目を見張るものがあります。学生諸君には英語の勉強も兼ねて、これからの日本人は、自らの主張、意見をもつこと、そしてそれを発言できる真の国際人にならなければならないとの主張は示唆に富むものであること請け合いで

す。本の詳細は、読んでいただくとして、ここではその序文にある一節を紹介したいと思います。新渡戸稲造がベルギーの法政学の教授と次のような会話を交しています。

「それでは、あなたの説によると、日本の学校においては、宗教教育はなされていないということなんですか」と聞かれた新渡戸が、「ありません」と答えると、教授は驚いたように突然歩みを止めて「宗教がない。それでどうして、道徳教育を授けることが出来るのですか」といわれたことは、忘れられないと述懐し、新渡戸はこう述べる。「自分が少年時代に学んだ道徳の教えは、学校で教えられたものではなかったからである。私自身の中の善悪や、正不正の観念を形成しているのは一体何なのか。そのいろんな要素を分析してみて、はじめてこれらの観念を私自身の中に吹き込んだものは、実に武士道であったことをようやくに見出したのである」と。

そして本文の構成は、義 勇気、敢為堅忍(カンイケンニン)の精神 仁・惻隱(ソクイン)の心 礼儀 真実および誠実 名誉 忠義 克己 婦人の教育と地位 等など について欧米との比較検証を交えて実に深い論述を展開している。

みなさまに是非読んでいただきたく思います。
(船井孝祐)

4月小教区評議会報告

日時：2005年4月10日(日)

1. はじめの祈り
2. メンバー紹介
3. 報告事項
 - (1) 「個人情報保護法」施行に伴う対応
研究をして、今後の対応策を考えていく。
 - (2) 合同堅信式(5/15 10:00～、於：中央教会)
合同準備会(4/23 14:30～、於：中央教会)
主に子供が対象。午前中は炊き出し体験。
堅信者以外の参加要(評議会役員代表者)、
六甲教会での独自準備会(全3回)
4/24、5/1の予定(1回目は終了)
堅信式当日、六甲教会の主日ミサは
7:00と9:00のみ。
 - (3) 予算支出方法
財務部より、支払伝票の書き方、物品購入ル
ールなどの補足説明。
4. 議題
 - (1) 年間スケジュールの一部変更
教会学校入学式 4/9 4/16(土)14:30～
教会大掃除 4/9 5/7(土)9:30～
ブックフェア 6/19(案) 女子パウロ会、
社会活動部と調整して最終決定。
主の降誕ミサ(今年は主日にあたる)の回数
について次回検討。
 - (2) オルガニスト、独唱者の募集
オルガニスト：担当回数を増やすなどして
新しい方にも経験を積んでもらう(典礼の
勉強も含む)。結婚式、葬儀等の特別ミサに
も対応できるように。
独唱者：教会報で募集(特に若い男性)、
典礼奉仕者の集いに参加して頂く。
将来、土曜夜の主日ミサや特別ミサにも独
唱を入れることを考慮。
 - (3) ミサの雰囲気づくり(ミサ前、ミサ後)
ロビー・聖堂内での沈黙の周知徹底。
(はりがみ、口頭でのお知らせ)
遅れて入る時のタイミングを案内係が指示。
ミサ後のイグナチオホールの開放。
(活発な交流の場となるよう)
静かな祈りの雰囲気作りと、皆が来やすい雰
囲気作りのバランスを考える。
5. その他
 - (1) 教会大掃除：参加者が固定。常に人数不足。
特に若い男性の人手が必要。各会で早めに呼
びかける。大掃除当日は、予め割り当てを決
めて、即作業にかかれるようにする。
なお、危険をともなう作業・高所作業等は業
者に任せる。
 - (2) 施設管理部より：聖堂築後10年目を迎え、
保証期間中(今年9月まで)に補修工事。
今後、年に1度はゼネコン/業者/評議会役員
代表者/司祭で不動産検分会を開き、建物管理
のシステム化をはかる。
 - (3) 地区会より：郵送料、病者のお見舞い訪問
等に多少の予算オーバーあり。
 - (4) 広報部より：ローマ教皇ご逝去にあたり、
急きょ4/8追悼ミサと4/10主日ミサで教皇様
写真入りカードを配布(計900枚)。
 - (5) 第二会議室内のロッカー共同利用
サンデースクール分が空いたこともあり、こ
の機会に整理をして、ロッカーを持たない信
徒会・専門部会との共同利用をする。
4/24 10:15～関係者が集まって、ロッカー
整理をする。
6. 次回小教区評議会：6月12日(日)10:15

<2005年度信徒総会議事録の訂正とお詫び>

標記議事録の8)質疑応答事項の の中に一部誤解を招く表現がありました。下記のとおり訂正して、お詫び申し上げます。

「シナピス神戸は今までヨハネ修道会に事務所をおき、Br.岡が事務をされていたが、今回社会活動センターの中に事務所を構え、事務員をおくなどの経費がかかるようになったこと、さらに夜回り以外の活動を広げようとする、年会費での運営資金では不足であることから、各教会の信徒数に応じてシナピス神戸への分担額を決めてはどうかという話があり、その場合に備え30万円を予備費に計上している。」

復活前夜祭で洗礼のお恵みに与られた方々の喜びの声が届きました。

洗礼を受けた今

今、教会から帰り、ひとり受洗した喜びに浸りながらビールを傾け、今日の感激、これまでの事などに思いをはせる。

縁あってカメラータ合唱団に入り、はじめて宗教曲を歌った。そこで「これはキリスト教をのぞいてみなければ」と思った。そして日曜日のミサに通いはじめた。桜井神父様が初心者のために講義をしていらっしやると聞き、勉強をはじめた。初めての経験であった。それが回を重ねるに従って、興味が湧き出した。その時洗礼を勧められた。しかし自信がない。私は納得がいつからかと思っ、一応お断りした。そして半年もすると私には入信して、もっとキリスト教を勉強しようという進路が見えはじめた。そして受洗を決めると私の考えや行動は慎重になり、イエス・キリスト様はどう考えられるであろうかと思うようになった。2月、3月は日々緊張、祈りの静かな日々であった。

そして今日の受洗。たくさんのお友達からの祝福の声。この迷いに迷った私を気長く待って下さった神父様の笑顔があった。「これからも一緒に祈って進みましょう」というお言葉。あゝ、これでよかったのだという安堵感が全身に広まった。そうだ、新しく生きよう、この一つしかない人生をたっぷり生きてみよう、そうすればきっと神様が次の世界を見つけて下さるに違いない。私はすべてをイエス・キリストにおまかせしようと思った。

私の受洗に際しまして、代母の藤井様にはそれはそれはお世話になりました。感謝いたしております。教会の信者の方々、カメラータの合唱の方々の厚いご好意に感謝いたしております。そして、桜井神父様には、本当に暖かく私を導いて下さいました、感謝申し上げます。

(セシリア 三浦 二三子)

今夜、御復活の前夜祭、多くの皆様の祝福を頂くなか、洗礼を賜った。

“毎日サンデー”の私が三年前のある日、妻・娘の勧めで教会を訪れ、ホセ・ヨンパルト神父様の教室に入れて頂いた。「入門講座」は一年。オマリー神父様には「イザヤなど預言書」を二年。お二人の神父様には、ご熱心に“聖書の心”を説いて頂いた。「疑問があれば、いつでも、なんでも聞けばいいよ」と私の幼稚で突飛な質問にも真正面から応じて下さった。生徒には寛容。すべてを大きな力に委ねておられる“祈りのお姿”には神聖な空気を感じる。加えて、代父松田様はじめ教室で共に学ぶ先輩信者の皆様とおつきあいさせて頂くうちに、私でも知らず知らずのうちに少しは“神のみこころ”を理解でき始めた気がする。

2月13日の志願式。オマリー神父様は48年前の2月13日、この日に日本の地に着かれたそう。その偶然を頂いた。

残された余生を、古びた心に少しづつでも磨きをかけていきたいと思っている。

よろしく申し上げます。

(ヨセフ 鈴木 昭男)



「新しく生まれ変わること」洗礼前、代父の三澤リーダーに洗礼とはどういうことか、と聞かれ僕はこう答えました。額に水を注がれてから、僕はこの事を強く心に思い、これからはミカエルという名を背負って生きていくんだ、という責任感と希望とに胸をふくらませています。

今後共、多方面にわたりお世話になるとと思いますが、何卒よろしくお願い致します。そしてオマリ一神様、三澤リーダーをはじめ、事務所の方々、多くの方の支え、お心遣いに心から感謝致します。

(ミカエル 渡部 大和)



聖木曜日 洗足式



聖木曜日 聖体安置式



復活前夜祭 洗礼式



「いつも光の子として歩みなさい」

親睦会

4月3日(日)、ミサで初聖体・祝福式が行われて11人の可愛い子供たちが、その恵みを受けました。親睦会は桜井神父様のお祝いの言葉で始まり、元気一杯な子供たちの喜びの声や歌声で会場が包まれました。その後、テーブルに用意された心のこもった、たくさんのお料理を皆でいただき、新受洗者の方々、転入者の方々との交流の場を持つことができました。さらに、混声合唱団の方々の指揮で歌を歌ったり、青年会のメンバーの指示でビンゴゲームをしたりして会場が一つになって盛り上がりました。私はこの親睦会の司会をさせていただきました。色々と不備な点もあったと思われませんが、お許し下さい。私にとって初めての経験でとまどいや不安もありましたが、先輩の方々が一つ一つ丁寧に指導して下さいましたので、大きな支えとなりました。

「六甲教会は一つの温かい家族なんだ」準備する時から私の中では親睦会が始まっていました。皆様、色々とうりやうございました。

青年会 由利 光彦

入管面会記

3月17日、入国管理センターで面会する機会を得た。JRの駅や路線バスの停留所から離れた場所に建つ施設に、同行の方々とタクシーで向かった。緑が多く環境の良い場所にあるが、収容されている人達は、常時閉められた窓から外を見ることはできないという。

敷地内の坂を上った先にある玄関から中に入り2階に行く。窓口で面会申請書を提出し、身分証明書を提示し番号札を貰う。20分ほど待つと番号が読み上げられ、係員の誘導でロッカーに手荷物を預け、面会室に向かう。面会室は、大きな透明パネルで分けられており、面会者と収容されている人は直接触れ合うことができない。

お会いしたアジアの方は、体調を崩しているため顔色が悪かったが、仮放免のめどが立ち、30分ほどの面会時間中は終始笑顔で話をなさっていた。家族は、他国に散って生活している。母国は名称を変えたが、国の歴史、実情に沿った旧名称で呼んでほしいという。仮放免後は以前住んでいた神戸に戻り、収容される端緒となった体調も、支援を受けながら、しっかり管理していきたいと真顔で語っていた。

仮放免されても、生活に必要な法的書類を読み書きする日本語能力の習得、支援者との信頼関係の構築、住居、日々の糧を得るための仕事の確保など、日本定住の努力は並大抵のことではないだろう。面会時間が終了し、透明パネルの前で手を合わせた時、神様の導きで隣人として関わり、良い関係が築けるよう願わずにはいられなかった。
(佐藤晶子)

芦屋地区集会報告

平成17年4月10日午後1時30分から3時30分まで、芦屋市民会館の一室で地区集会を開催しました。同日は安芸神父様、福田・折川両コーディネーターに参加していただき、芦屋地区の信徒8名が集まりました。

安芸神父様の「復活」に関する有意義なお話しで始まり、このテーマに関して各自感じたこと・思うことを話して、安芸神父様から説明してもらったり、お互いに意見を述べ合ったりして、少しは分かち合えたかな・・・と思えるひと時でありました。

前回と比べて残念ながら参加者を増やすことは出来なかったが、一方的に神父様のお話を聞くことから、少しは相互理解が出来る方向に進めたのではないか??と感ずることが出来ました。芦屋地区らしい集会が出来る様に、今後とも注力していきたいと思えます。
(米村純一)

「聖体奉仕者黙想会」を行って

聖体奉仕は2000年から始まり、6年目を迎えました。昨年秋、初めて聖体奉仕者の集いを行い、黙想会、勉強会の希望が出されました。4月16日、生徒研修所で行われた聖体奉仕者黙想会は18名(奉仕者の約6割)の方が参加しました。パレンティン神父様の話を聞き、静かな時間を持ち、祈り、分かち合い、豊かな時間を持つ事ができました。教会に戻り、小聖堂でごミサを捧げ、神に感謝して黙想会を終えました。

心に響く神父様の言葉は、「聖なるスペースを自分の中に作っていく。そのために、ごミサの前に祈ることにより自分の心を養うことが必要である」「準備として、私からご聖体を受けてくださる方のために祈る」

今回の黙想会は、一歩踏み出したにすぎません。未熟な私たちですが、イエス様を、神様の祝福を人々に運ぶよう、神様が道具として使ってくださいませ。
(典礼部)

図書室 新着図書より NO.1

今月より、今まで掲示だけでご案内していた図書室の新着図書を教会報でもご紹介します。
当教会図書室は地区の一般教会にはみられない規模であり、利用者は、お蔭さまで教会内外に徐々に増えてきています。さらに皆様に図書室の内容を知って頂き、どうぞ信仰養成につなげて下さい。

「わが師イエスの生涯」

井上洋治 著

日本基督教団出版局

日本人の心の琴線にふれるキリスト教と師イエスの素顔を真摯に求めて長い旅を続けてきた現代の直弟子が、誕生から復活までを記述したイエスの生涯。

「暴力とゆるし」

ジャン・ヴァニエ 著

女子パウロ会

「テロとの戦い」が声高に叫ばれる時代、今わたしたち一人ひとりに何ができるか？
ラルシュ共同体の創設者ジャン・ヴァニエが、新たなヴィジョンを語る。

「叡智 - テロを超える宗教の力」

白柳誠一、樋口美作、安田暎胤、眞田芳憲 対談。

佼成出版社

仏教、キリスト教、イスラム教の三大宗教の代表者による今日的な問題についての対談。教会報4月号、「図書紹介」欄にも紹介されています。

「聖地アッシジの対話 - 聖フランチェスコと明恵上人」

ヨゼフ・ピタウ、河合隼雄 著

藤原書店

カトリック大司教と日本の文化庁長官が中世の同時代に生きた聖フランチェスコ、明恵上人の二人の宗教者に学びつつ今、人類にとって最も大切な「平和」について語り合った。

「名著を入口に聖書に聞く」

佐藤博 著

マナブックス

京都丸太町教会の牧師が、自らの琴線に触れた21冊の書物を手掛かりとして聖書を説いていて興味深い。

「石と随想」

船越保武 著

求龍堂

「長崎二十六殉教者記念像」、「病醜のダミアン」、「聖クララ」などの美しい石像彫刻とデッサンで知られる彫刻家。その美しい写真と随想とともに綴る魅力的な作品集。没後三年の記念刊行。

「聖母のルネサンス

- マリアはどう描かれたか」

石井美樹子 著

岩波書店

ルネサンス期の聖母子像は、子を慈しみ育てる母たちの理想像となり、さらには文字文化から遠ざけられてきた女性たちに学ぶことを促す役割も果たした。ルネサンスの息吹を生き生きと伝える。

六甲教会図書室

信徒会館2階

お好きな本を見つけに

お越し下さい。

5月号のテーマ：わたしたちと共におられるイエス

これまでの祈りによって、私たちは少しずつ自分の日々の生活の神秘を分かるようになります。それは神がイエスを通して常に私たちと共におられるからです。確かに、以前は神の現存がほんの少しだけしか感じられなかったかもしれませんが、今度の長い祈りの旅を通して、改めて私たちは神の現存をもっと意識するようにと努めました。

ルカ福音書では、復活後イエスは何回も弟子たちにご自分の姿を現しました。その一つはエルサレムからエマオという村に向かっている2人の弟子たちに現れた出来事です。弟子たちは、長い間待ち望んでいた救い主であるメシアをイエスに期待していたのに、結局イエスが死んだことによってその期待が実現されなかったことにがっかりしました。エマオへの旅の途中で、イエスご自身は彼らの間に入って、ご自分がイエスであることを気づかせようとしませんが、彼らの心は既に悲しみで一杯だったので、イエスの姿を認識するための心の余裕がありませんでした。

私たちの人生を振り返ってみましょう。おそらくイエスは何回も私たちの人生に現れましたが、イエスの姿に気づく私たちの心の余裕はあまりなかったでしょう。今月の祈りで、イエスの姿に触れるのに妨げとなる絶望、心配、不安、問題に夢中になりすぎるなどを見極めて、改めて私たちの心の余裕をつくるように、その恵みを願います。

【聖書の参照】エマオの弟子たち（ルカ 24:13-35）弟子たちへの出現（ヨハネ 20:19-23）イエスとトマス（ヨハネ 20:24-29）

（バンバン神父）

教会報6月号の発行は5月29日(日)です。
編集会議は5月22日(日)です。記事原稿は
5月15日正午12時までに信徒会館事務室へ
御提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会
〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21
電 話 078-851-2846
発行責任者 桜井彦孝神父
編 集 広 報 部